

周囲からの相談が就農への
 心の後押しに

令和3年に就農した「みきふぁーむ」三木雅裕さん。グローバルアリーナで約20年働いていた。その傍ら両親の農作業を手伝っている中、周りの農家が高齢になり「自分ところの田んぼも引き継いでくれないか」と相談を受けることが増え、就農を決断した。主に米、黒豆、そして野菜を栽培。加工品も作っている。



ベーカリーカフェ「Green Grass」。様々なパンや焼き菓子を販売している。持ち帰りはもちろん、芝生広場やカフェスペースで食べることができる。

ビュッフェ形式のレストラン「GA倶楽部」。席数も多く、少人数から大人数、お子様連れからご年配の方々まで幅広く利用できる。



Yoshitake
 吉武

Theme
 地産地消

About
 吉武地区は武丸と吉留を併せた校区。その昔、この地域は吉武村となっていた。現在も農業が盛んな地域。

田畑や山々など豊かで懐かしさを感じる自然風景が広がり、昔から農家が多い吉武地区。平成12年に民間の大型施設「グローバルアリーナ」はオープンした。自然と隣接した広大な敷地を活用し、様々なスポーツに対応した設備のほか、宿泊施設、レストランや一般に開放した芝生広場などを有している。



「吉武こころ会」のメンバーがつくる米みそ。日の里団地でのイベントや、吉武コミセン、赤間ヶ丘二区公民館でも販売



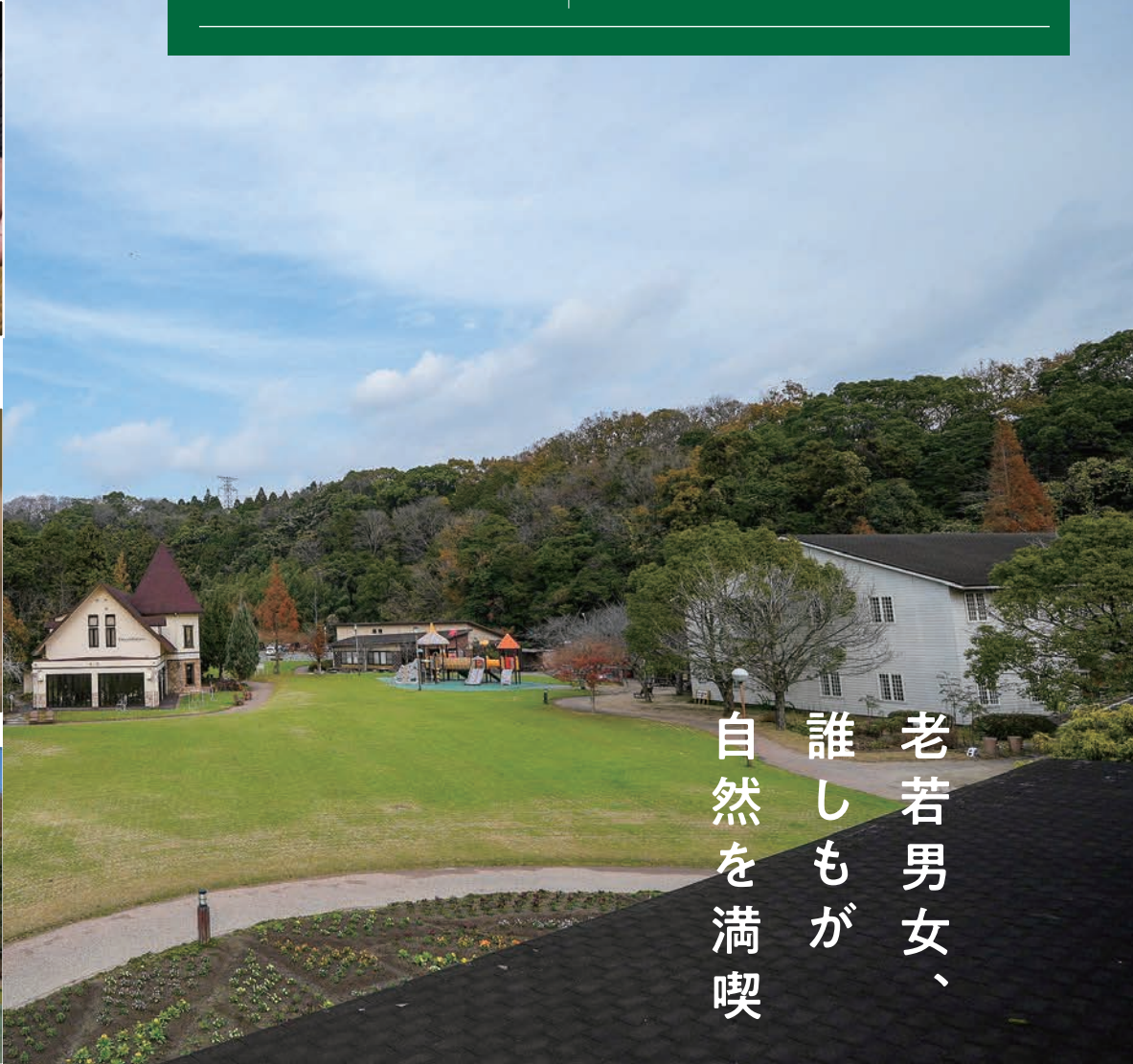
「吉武こころ会」のメンバーがつくる昔ながらの製法で漬けた無添加の梅干し



ロビーには市内の作家がつくる質の高い作品も展示



市内のみかん農家から直接仕入れてつくったパン



老若男女、
 誰しもが
 自然を満喫

民間大型施設と
 地域住民との繋がり

民間の大型施設はその地域のコミュニティとどうやって共存しているのか、その取組みについて「グローバルアリーナ（以降GA）」の田崎さんに伺った。創業当時を振り返り「地域との連携事業よりスポーツ、文化の国際的なイベントが多かった」と田崎さんは話す。そんな中、学校行事などの受け入れで、地区の婦人会に昼食のおにぎりを作ってもらうといった機会が出来た。その繋がりから平成21年頃に「新米と旬野菜フェア」が生まれた。新米や野菜の販売を地元農家や婦人会がGAで行い、4000個のおにぎりと各家庭の漬物食べ比べをお客さんに振る舞った。その時期からGAと吉武地区の農家や婦人会との親密な関係が生まれた。

高齢化が進む地域の
 農家の野菜などを販売

吉武地区は高齢の農家が多く、自分たちで作った米や野菜は自分たちが食べる分と、近隣におすそ分けする程度になっていた。味噌などの加工品もみんなで集まって食べる分と一緒にまとめて作る程度だったが、少しでも自分たちの収入になればやりがいが増えるのでは、と「吉武こころ会」を発足。こころ会は高齢農家の野菜や加工品などを取りまとめ、販売を行っている。いまだで近隣に販売先がなく困っていたが、GAがあることで、市内外からスポーツや遊びに訪れる人たちが、旬の野菜や加工品を買ってくれるようになった。

若手農家世代が
 受け継ぐ地域連携

発足して約10年が経って、10人ほどいたメンバーも高齢化により5人前後になった。そんな中「みきふぁーむ」の三木雅裕さんの妻、瑠美さんがその代表を引き継いだ。「みきふぁーむ&こころ会」という形でイベント出店の際に商品販売。みきふぁーむでは、GAのレストランに採れた野菜などを納めている。地域で採れた作物を地域で販売する地産地消。集客力のある施設と豊かな土地を持つ地域が同じ場所にあり、一体となって取り組んでいたからできた形だ。GAは吉武以外にも宗像全域の農家の食材を積極的に扱っている。
 民間施設と地域の連携はそこに仕事や雇用を創出し、人の流れも生む。三木さんが就農に至った経緯もその一つだ。吉武地区に来た際は面白いかもしれない。